



発行・障害者
京都スポーツ
振興会

「人」「つながり」「思い」を大切に

京都障害者スポーツ振興会事務局

柏原 絵里子

桜の花が咲き誇る4月。今年度もまた、いろいろな大会やイベントが始まります。振興会の年間予定計画は来年3月までピツシリ。空いている日曜日を探す方が難しいくらいです。行事の中には少し新しい試みもありますが、毎年ほぼ同じイベントを同じ時期に計画・開催となるものばかりです。しかし毎年それらにかかわる事務局にいながら、私にとつてどれも新鮮に思えるから不思議です。皆さんはどのように感じられていますでしょうか。

振興会の組織が昨年の4月に新しくなり、ベテランのメンバーの中に新しいメンバーが入り1年が経ちました。障害のある方のスポーツ活動について、また、ボランティア活動について皆同じ「思い」を持っての同士が「専門部」という形の中に別れて入り、関連するイベントにより積極

的に参加を始めました。もちろん時間的に無理があつて専門部の中に入れなかつた方もいらつしやいます。同じように見守ってくださつていきます。組織が新しくなつた。と言つても、「事務作業が変わつた」とか、「開催する内容が変わつた」というわけではなく、実際には「人」が増えた。のです。「なんだ、人が増えただけか。」「と思つてしまふところですが、「人」が増え、「人」が関わるといふことほど新鮮で、素晴らしいことではないでしょうか。

しかし、いざ新組織が動き出しはじけると、共通理解があるはずの「思い」の方向性が微妙に違い、さまざまな角度の考え方があり、それを一つの方向に共有すること、理解し合うことに時間がかかり、それに振り回され、不安定な1年となつたように感じました。家族ですら考えているこ

とは様々なのに、振興会に「人」が集まるものでもありません。そのうまくいくはずがない様子に苦悩するベテランの役員の姿もありました。その反面、振興会はいろんな「人」と「思い」が集まつて作られている団体だと改めて感じ、その魅力にとりつかれる「年でもありません。振興会は「人」に「人」が集まつて、大きくなつて今に至つていと聞いています。元は「人」と「人」。今も「人」と「人」。そこに男女の違いはあつても「人」が少なかつたのが増えたかの違いに過ぎないはずなのに、いつの間にか「人」と「人」を混じり合わせることも全員不器用になつてしまつたかもしれせん。また、そのことにパワーを使ひすぎで、参加される障害のある方のことを考える余裕が少なくなつてしまつた部分もあり、私自身も含め大きな反省点であると思つています。

「何が主役」で「何が大切なもの」なのか。振興会はただ行事をこなす団体ではありません。その行事ひとつひとつ、「人」が関わる以上、全く同じものではないのです。だからおもしろいのもかもしれません。それと共に、「思い」には底知れぬパワーがあることを感じていました。

かかつてくる電話も。事務所に鉛筆一本までもが好きてした。「思い」の塊の上にとつと居候させていた感じだつたのかもしれない。また、お話をしに来て下さる方の「思い」を聞くのは、私にとつて一番心地よい時間でもありました。皆さんがご存知の通り京都障害者スポーツ振興会は障害者スポーツセンターの一角に小さな事務局があります。小さな事務局の扉を叩くと、電話は数知れず。申込みを持ってきました。「何か出来るボランティアは」「何かから」「何だか元気がないんだ。」「と様々。みなさん思いの気持ちを持ってドキドキワクワクワクワクしてこられます。

「いざ、振興会へ！」と思つても、実際に動き出すまでは、すぐには扉をたたけず、勇気が出るまでには多くの時間とほんの少しの後押しが必要なのようです。そして不思議なことに、その後押しを横にはいつても振興会を支えてくださつてくれる方々の「思い」を感じることができました。事務局の人数は少ないですが、ボランティアをいつでも思つてくださる方々がいつぱいいてくださり、それは大きな力であり、年間数多くの行事を無事に終える支えであると感じています。たまに「何も手伝いできないから。」「と実質的な動きが出来ないことを負に思つてくださる方がいらつしやいます。

が、そうではないのです。たくさん「人」「思い」を支えられている振興会。ベテランの役員、事務局は常に自身も「思い」を持ち続け、新しいボランティアさんや障害のある方の「思い」そして「夢」を少しでも形にすることが出来るような、接着剤的な存在にもつともつとならないといけないのではな

いでしょうか。そして声を掛け合い、伝え合うことの重要性を忘れてはいけないと思います。

（柏原さんは本年3月で退職されました。ありがとうございました）

私たちと卓球バレー

「出会いから普及に至るまで」

和歌山障害者スポーツボランティア
実行委員会 代表

田中 健治

昭和57年5月だったでしょうが、京都では初めての試みとかで、他府県の選手が全京都身体障害者卓球大会に招待され、和歌山からも、選手2名と妻とが前泊で参加いたしました。会場の京都府立体育館では大変な歓迎を受けました。が、意外なことに、他府県の者は他府県同士で対戦するだけで、地元京都の人たちとは全く試合は出来ないことを知って、ガツクリきたことをおぼえています。この日は珍しいほどの豪雨で交通が遮断され、県外からエントリーした15名のうち3名以外は欠場し、3名だけでリーグ戦を行いました。あつけない試合が終わり、そのあとオープン戦として地元の選手たちとの試合が急遽組まれましたが、時間の関係で最後まで続けることが出来ず、なんとも後味の悪さが残りました。

この時、体育館の片隅で、一風変わった卓球らしきものを見つけ、尋ねたところ「卓球バレー」という新競技だと教わりましたが、この記憶が現在の和歌山での卓球バレー普及活動につながろうとは、夢想だにしなかったことでした。

平成10年頃だったでしょうが、ある福祉施設職員から、「重度障害の人にも出来るスポーツって何かないでしょうか？」とたずねられ、丁度、私たちの卓球クラブで重度障害者のために開発した座ってプレーする「マット卓球」を勧めたところ「田中さんたちが関わっている重度の人たちと、私たちが関わっている人たちとは、障害の重さにかんがりの開きがあります。とても、空中に浮いているボールなんか打てませんよ」と即座に言われ、私たちの考えの甘さを思い知らされましたが、それで、ふと思いついたのが、京都でみた「卓球バレー」だったのです。

平成11年6月、障害者スポーツボランティア検討委員会が県社協の肝いりで出来、早速、卓球関係者数名で全京都障害者スポ

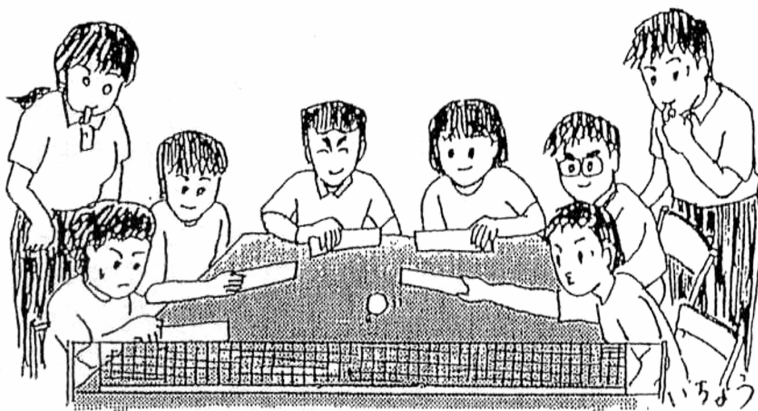
ーツ大会卓球バレー大会の部を見学。12年4月、和歌山障害者スポーツボランティア実行委員会」を設立。県社協と県身体障害者スポーツ協会の全面的協力です。県下一円の普及活動に動き出しました。

和歌山県は橋本市から新宮市まで南北に細長く、県庁所在地の和歌山市と新宮市間は、和歌山市と京都市間とほぼ同じくらいの時間を要します。その長い地理的条件の中で、地域々々のボランティアグループと連携し、施設を訪問したり、交流会を開いたり、根気良く普及に努めました。が、その間、京都障害者スポーツ振興会の金子さんには3回も指導のためご足労いただいたり、京都の講習会に参加させていただいたりし、時森さん、事務局の柏原さんたちにも大変お世話になりました。

そして、平成15年9月に、目標となる本格的な大会開催が必要だと考え、「プレ大会」を開催。16年9月には「第1回和歌山オープン卓球バレー大会」に発展し、年々参加チームが増え、18年の第3回大会に、21チームが参加。スタッ

フ・ボランティア、応援などを含めて参加者総数350名に及び、ついに、これまでの県子ども・障害者相談センター体育館を離れ、今年9月16日開催予定の「第4回大会」は和歌山県立体育館に会場を移すことになりました。

先日3月18日、「京都サウン・アピ杯卓球バレー10回大会」に2チームを同行して参加させていただきました。ですが、ゲームの内容や審判、運営等々、大変貴重な体験をさせていただきましたこと、紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。



行事予定	4月	8(日)	411回障害者スポーツのつどい	京都府立体育館	
		10(火)	丹波障害者スポーツのつどい	丹波自然運動公園	
		14(土)	スタッフ全大会	京都市障害者スポーツセンター	
		15(日)	障害者水泳のつどい	伏見港公園プール	
	5月	21(土)	フライングディスク講習会	京都市障害者スポーツセンター	
		22(日)	城陽障害者スポーツのつどい	サン・アビリティーズ城陽	
		8(火)	丹波障害者スポーツのつどい	丹波自然運動公園	
		10(木)	卓球バレー審判講習会①	京都市障害者スポーツセンター	
		詳しくは、京都障害者スポーツ振興会事務局まで(火曜日及び第3金曜日は定休日)			
		京都障害者スポーツ振興会ホームページ TEL/FAX075-712-7010			
http://web.kyoto-net.or.jp/people/spo-shin/ (8月20日に一部更新)					

来月の
つどいは
5 / 13
第2日曜日